

2012/08/19 礼拝メッセージ 成田宜庸 兄

主 題：私たちの立場

聖書箇所：コリント人への手紙第一 6章20節

恐らく、皆さんお一人ひとり自分の好きな聖書箇所をお持ちだと思います。私も「聖書のどの箇所が好きですか？」と聞かれたら、今日、皆さんとごいっしょに学ぼうとしているこの1コリント6：20を挙げます。もし「クリスチャンとは何ですか？」と聞かれたなら、私は「ここがすべて、第一コリント6章20節がクリスチャンのすべてを語っている。」と答えます。だから、私はこの箇所が好きです。今回はこのような貴重な時間を神が与えてくださったので、皆さんとこの6章20節を前半と後半の2回に分けてごいっしょに学んでみたいと思います。

☆クリスチャンの立場、責任、そして、務め

1. コリント人への手紙6章の概略

今日見るのは6：20だけですが、6章の1節から20節までがどのような内容なのかを見たいと思います。この6章は様々な分け方があるのですが、大きく三つに分けることができます。

1) 6：1－8

この当時、コリントの教会で起きていたキリスト者同士の争いについて言及しています。それは6：5－7を見るとよく分かります。「私はあなたがたをはずかしめるためにこう言っているのです。いったい、あなたがたの中には、兄弟の間の争いを仲裁することのできるような賢い者が、ひとりもないのですか。:6 それで、兄弟は兄弟を告訴し、しかもそれを不信者の前ですのですか。:7 そもそも、互いに訴え合うことが、すでにあなたがたの敗北です。なぜ、むしろ不正をも甘んじて受けないのですか。なぜ、むしろだまされていないのですか。」、このようにパウロはコリントの兄弟たちを諭しています。

2) 6：9－11

新しい存在とされたキリスト者について述べています。11節「あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」

3) 6：12－20

ここでは、新しい者とされたキリスト者の責任について書かれています。それは不品行という罪を例に挙げて私たちに教えます。13節「食物は腹のためにあり、腹は食物のためにあります。ところが神は、そのどちらをも滅ぼされます。からだは不品行のためにあるのではなく、主のためであり、主はからだのためです。」、この12節から20節に至る最後の19節と20節で、パウロは非常に大切なことを教えるのです。クリスチャンの立場、そして、その責任、務めについて私たちに教えています。

2. 6：20の前半部

6：20「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」、今日は20節の前半の部分を学びます。20節の冒頭は「あなたがたは、」です。お分かりのように、パウロはコリント教会の兄弟姉妹たちを指して言っています。次の「代価」ということは、国語辞典で調べると「代金、品物の値段、そして、あることのために支払わなければならない犠牲や損害のこと」とあります。恐らく、この意味は皆さんよくお分かりだと思います。なぜなら、普段の生活でこのことをしているからです。買い物に行きます。店頭で物が並べられています。私たちは欲し

い物があればその品物についている代金を払って購入する訳です。まさに、これと同じことです。代価を払って買い取るのです。しかし、考えてみると、クリスチャンのために支払われた代価は何でしょうか？果たして、私たちが普段品物を買うために支払うお金でしょうか？皆さんはそうではないことをご存じです。それは、主イエス・キリストの死、主イエス・キリストの十字架です。クリスチャンのために支払われた代価は主イエス・キリストの死です。私たちはこのことについてみことばから学びたいと思います。

1) 主イエス・キリストの死 (十字架)

Ⅰペテロ 2：24：「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」と、ペテロはこのように書いています。この主イエス・キリストの死、十字架は、聖なる神の罪人に対する要求を満たすために支払われた身代金です。神は罪人を贖うために、代価を払って私たち一人ひとりを買って取ってくださったのです。

Ⅰペテロ 1：18-19：同じように、1章でもペテロはこのように教えています。「ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、:19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」。罪の中にある人間は死刑の宣告を受けた者です。パウロはローマ人への手紙で7章14節でそのような者を「罪の下にある奴隷」と書いています。「私たちは、律法が靈的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。」、そのようなに死刑の宣告を受けた者、あるいは、罪の下にある奴隷を、キリストの十字架は尊い代価として私たちを買って取るために神が支払ったものです。皆さんは尊い代価を払って買い取られたのです。みことばはそのことをはっきりと私たちに教えます。

Ⅱペテロ 2：1：またみことばは、その買って取った主人がだれであるかも私たちに教えています。それはⅡペテロ 2：1で、クリスチャンを買って取った者が主であるということを、はっきりと私たちは知ることができます。「しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現われるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買って取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。」

2) 買い取る

さて、私たちは代価を払って買い取られました。「買い取る」ということばの意味ですが、国語辞典には「買って自分のものにする」とあります。まさに、その通りです。

a) 買い取られる以前の姿

しかし、よく考えてみると、私たちは買い取られる以前の姿を一人ひとりよく知っています。また、みことばにも書かれています。私たちはそのことをもう一度みことばから学びたいと思います。

エペソ 2：1-3：「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、:2 そのころは、それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」、私たちは生まれながらに御怒りを受けるべき者だったのです。このとき、私たちの主人はサタンだったのです。しかし、私たちは代価を払って買い取られたのです。みことばはこのように教えるのですが、今、私たちは近藤先生のローマ書の講解を長い間聞いています。最後の16章にかかりました。この中でもパウロは私たちの以前の姿をもっとはっきりと教えています。

ローマ6：16－18：「あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。:17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、:18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」、ここでパウロは買い取られる以前の私たちは「罪の奴隷であった」と述べています。当時の社会は、奴隷が存在すること、奴隷が主人のもとにあるという関係は一般的でした。だから、パウロがこのローマ書で「奴隷」と書いてみことばを教えても、当時の人たちはよく理解できた訳です。なぜなら、実際にその奴隷がいたから、奴隷がいかなる者であるのかはよく理解できたのです。現代に生きる私たちには、周りを見ても奴隷という人たちはいません。だから、私たちは確かにことばとして「奴隷」ということばの意味は理解できますが、実際にその人たちを見ることはできないのですから、この当時の人たちとは多少違う理解力の不足があるかもしれません。

当時、「主人、あるいは、主と奴隷」という関係がありました。そして、この奴隷、ギリシャ語では「デューロス」と言いますが、この奴隷は主人に対して全く服従の者です。奴隷の意見、あるいは主に対する反論などは全くできないのです。そして、奴隷は法的には主人の財産です。物です。だから、この奴隷を主人が他の人に売ろうが、貸そうが、あるいは、他の人が持っている奴隷と交換しようが、あるいは、その奴隷を子どもたちに相続しようが、それは自由にできたことです。そしてまた、この奴隷は当時の自由人と違って父性を持っていませんでした。「だれだれの子だれだれ」という、そのような父性を持っていませんでした。ということは、当然、奴隷には系図がなかったのです。皆さんご存じのように、マタイの福音書の書き出しは系図で始まっています。当時、この系図が本当に大切なものとして扱われていました。しかし、奴隷たちにはこの系図がなかったのです。そして、この当時の奴隷たちの多くは、体のどこかに焼き印で印をつけられたと言われています。だれの所有物であるのかははっきりするために体のどこかに焼き印が押されていたと、このように辞書は私たちに教えています。

パウロはここで我々が買い取られる以前は罪の奴隷だったと、このようにローマ6：16で教えるのですが、16節の冒頭で「あなたがたはこのことを知らないのですか。」と書かれています。ただ単に、知識としてではなく、「あなたがたは体験的に実際の生活の中でこのことは知っているでしょう」とパウロは言うのです。そして、「あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、」とありますが、あなたがたが自分から積極的に、あるいは望んで自分を差し出す、自分を引き渡す、このような意味合いのことばですが、「...服従すれば、その服従する相手の奴隷であって」とパウロは教えます。罪の奴隷はサタンの奴隷です。そして、その奴隷の結果はみことばに書かれている通り「死に至り、」です。ローマ6：23に「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」と書かれています。罪の奴隷、サタンの奴隷の結末は「永遠の死」です。みことばははっきりとそのことを教えています。

b) 買い取られた後のキリスト者 ⇒ 主に従う者

しかし皆さん、何と幸いなことでしょう。私たちは代価を払って買い取られたのです。買い取られた後の私たちは、罪の奴隷ではなくなったのです。

ローマ6：16－18：「あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。:17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教

えの規準に心から服従し、:18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」、パウロはここでそのことをはっきりと教えています。では、私たちはどのような者になったのでしょうか？私たちはどのような立場の者になったのでしょうか？パウロはここで「従順の奴隷、義の奴隷」と言っています。

ローマ6：22：「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。」、ここでは「神の奴隷」になったと教えています。どれも同じ意味合いのものです。私たちは主イエス・キリストの奴隷となったのです。その奴隷の結末はどうでしょう？「義に至る」とあります。先ほども読みましたが、6：23には「...私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」と書かれています。神の奴隷の結末は永遠のいのちです。

そして、6：18には「罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」とあります。パウロははっきりと、私たちは罪の奴隷という立場ではなくなり、義の奴隷となったと教えるのです。私たちは罪の奴隷から、主イエス・キリストの奴隷となりました。

コリント6：19：しかしもう一つ、私たちは最も大切なことをここから知ることができます。「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。」。私たちのうちには聖霊がお住みになっています。私たちが買い取られる以前は、私たちのうちには聖霊はお住みではありませんでした。しかし、買い取られた今、私たちのうちには聖霊が住まわれているのです。私たちは主イエス・キリストの奴隷、また、聖霊の宮となったのです。

皆さんがよくご存じのマタイの福音書6章24節にはこのように書かれています。「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」、奴隷は一人の主人の奴隷です。一人の主人に全面的に服従する者です。同時にふたりの主人には仕えることはできないのです。なぜなら、その奴隷には所有者の刻印が押されているからです。その所有者がその奴隷の主人であることをはっきりと示しているからです。

3. 従うこと

この奴隷という立場は主人に従う者ですから「従う」ということについてしばらく考えてみたいと思います。先ほども話したように、この奴隷、ギリシャ語でデューロスということばは新約聖書の中でよく使われることばです。この単語とその派生語は新約聖書の中で130回以上も使われていると言われています。奴隷は自分の自由や権利を持たない者です。奴隷という存在は他の人に従属することによって成り立っているものです。奴隷は自分の支配者、自分の主人の権威に従うのです。だから、主人と主人の支配には完全に、そして、無条件に服従する者です。

ここで私たちは「奴隷」と「しもべ」のことばの違いを少し考えてみたいと思います。確かに、聖書では「しもべ」と書かれている箇所がたくさんあります。しかし、その意味合いを良く考えると「しもべ」というよりも奴隷という意味合いが強い時があります。「しもべ」とは「他者に労働を提供する者」のことを言います。しかし、「奴隷」は「他者の完全な所有物」です。ここがしもべと奴隷の違いです。神の奴隷となったクリスチャンは主イエス・キリストに従わなければなりません。なぜなら、奴隷は主人に従うからです。

皆さんご存じのマッカーサー先生の翻訳書「イエスの福音」は、恐らく、多くの方々が読まれたことと思います。マッカーサー先生はその中でこのように述べています。294ページですが、「現代の福音主義キリスト教では、クリスチャンが奴隷でキリストが主人であるという概念がほぼ完全に欠落し

ています。」と。そうでなければならないのに落っこちていると言うのです。マッカーサー先生は奴隷と主人の関係をこのように言い表わしています。また、新約聖書の多くの書簡の冒頭をよく見てください。「私はキリストのしもべです。」ということばで始まっていますが、この「しもべ」ということばが意味するところは奴隷という意味合いの方がはるかに強いのです。ローマ1：1、ピリピ1：1、テトス1：1、ヤコブ1：1、IIペテロ1：1、ユダ1、黙示録1：1、それらの冒頭は「キリスト・イエスのしもべパウロ」「神のしもべ」「神と主イエス・キリストのしもべヤコブ」「イエス・キリストのしもべ」という書き出しで始まっています。

また、先ほどのマッカーサー先生の著者の中の296ページには「私たちは...

- **選ばれ** = エペソ1：4-5 「:4 すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。:5 神は、ただみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ決めておられたのです。」
Iペテロ1：1 「イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジア、ビテニヤに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、」、Iペテロ2：9 「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」
- **買い取られ** = Iコリント6：20 「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」、Iコリント7：23 「あなたがたは、代価をもって買われたのです。人間の奴隷となっははいけません。」
- **主人に所有され** = ローマ14：7-9 「私たちの中でだれひとりとして、自分のために生きている者はなく、また自分のために死ぬ者もありません。:8 もし生きるなら、主のために生き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。:9 キリストは、死んだ人にとっても、生きている人にとっても、その主となるために、死んで、また生きられたのです。」、Iコリント6：19 「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。」、テトス2：14 「キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。」
- **主人の意志と支配の下にあり** = 使徒5：29 「ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。「人に従うより、神に従うべきです。」、ローマ6：16-19 「あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。:17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、:18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。:19 あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。」、ピリピ2：5-8 「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。:6 キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができずとは考えないで、:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。:8 キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。」
- **私たちの生涯すべてにおいて主人に依存しています** = IIコリント9：8-11 「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。:9 「この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」と書い

てあるとおりです。:10 蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。:11 あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。」、

ピリピ4：19「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。」、そして、最後には

・神の前で申し開きをし=ローマ14：12「こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。」

・評価され=IIコリント5：10「なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。」

・主からの懲らしめか報奨を得るのです=ヘブル12：5-11「そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。「わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。主に責められて弱り果ててはならない。:6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」:7 訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるのでしょうか。:8 もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。:9 さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。:10 なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。:11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」、Iコリント3：

14「もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。」。これらはすべて、奴隷制度において不可欠な要素なのです。」と記されています。私たちは買い取られ、所有される者となったとマッカーサー先生もこの本を通して教えています。

4. 主イエス・キリストは絶対的従順を要求された

イエス・キリストも「従順」ということをはっきりと私たちに教えています。三つの福音書に同じようにこの記事が書かれています。皆さんご存じの「若い役人とイエスの会話」です。マタイでは19：16-22、ルカでは18：18-23、マルコでは10：17-22に記されている記事です。若い役人がイエスのもとに来て「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」（マタイ19：16）と尋ねました。イエスはそのことに関して青年に質問をするのですが、最後にこのように言われました。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むこととなります。そのうえで、わたしについて来なさい。」（19：21）と。さて、この青年は「はい、分かりました。そのようにします。」と言ってその場を立ち去ったのでしょうか？違います。「ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。…」（19：22）とみことばに書かれています。なぜですか？永遠のいのちをいただきたいと思ってせっかくイエスのもとに来て尋ねたのに、イエスが「持っているものを売り払いなさい」と言われたことに応えることができなかった。この若い役人は自分の持っている物を手放すことを良しとはしなかったのです。自分の財産を全部売り払うことはその役人にはできないことだったのです。だから、彼は悲しんでその場を立ち去ったのです。その若い役人が永遠のいのちを得ずに去ったのは、この世で彼自身が最も愛していたものを捨てることができなかったからです。イエスを主としてすべてを委ねる決心をすることができなかったのです。だから、悲しんでその場を去ったのです。この時のイエ

スを考えてみると、イエスはこの役人に対して彼が最も受け入れ難い条件を示したのではないのでしょうか？彼がもっと受け入れ易い条件を示したなら、これはあくまで仮定ですが、彼は受け入れたかもしれません。しかし、イエスがこの役人に示した最も受け入れ難い条件は、イエスに対する絶対的な従順だったのです。私たちは確かに恵みによって救われました。一人ひとりがそうです。しかし、私たちは救われる時にこのような思いをもって救いをいただいたかどうか、私自身も定かではありません。しかし、少なくとも、これからの人生は「イエスさまといっしょに過ごしたい！」と、このような決心をもって一人ひとりがこの救いをいただいたのではないのでしょうか？

5. 結論

今日、私たちはコリント第一6章20節の前半「**あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。**」というところを学びました。私たち一人ひとり**は**買い取られて神の奴隷となったのです。神の奴隷となった私たちには神の命令に従う義務があります。私たちは世の基準ではなく、みことばに従って生活することを求められています。1ヨハネ2：4に「**神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。**」と書かれています。私たち一人ひとりはこのみことばを自分の生活の基準とするべきです。

そして、今日はコリント第一6章の箇所をテキストにしましたが、7章23節にも同じことばが記されています。最後にこの箇所を読んでメッセージを終わります。「**あなたがたは、代価をもって買われたのです。人間の奴隷となっ**て**はいけません。**」